

特別報告

北京会議のNGOフォーラムでのパフォーマンス

小川真知子



まったくの個人ができること

95年8月30日から9月8日まで開催された第4回国連世界女性会議のNGOフォーラムに参加した。女性会議に参加するのは初めてだが、せっかく行くのだから、何かしたい。しかし、仕事が忙しくワークショップに申し込む時期を逸してしまった。しかも英会話能力ゼロという私ができるのは何か。いろいろ検討した結果、路上パフォーマンスをすることにした。これは、東京の友人のアイディアで、二人で電車の車吊り広告を胸から下げ、手には吊り革を持ち、サンドイッチ・ウーマンよろしく

会場を練り歩こうというのである。友人は英会話ができるので、説明は彼女に任せ、私はいろいろな車吊り広告を持参し、派手に練り歩こうと決めた。ところが、彼女は日程が合わず、一人で行なわざるをえないことになってしまった。仕方ない、作戦変更。

まず、パフォーマンスの意味がわかるように、英文のチラシを用意した。「コマーシャルの中の男女役割を問い直す会」の活動内容と、日本ではテレビを見る時間が長く影響を受けやすいこと、また、93年の広告費は5兆1千2百7十3億円で、GNPの1%以上を占める巨大産業であること、などを

簡単に紹介するチラシを1000枚作った。

(厳密に言えば、私の日本語を友人が英文にし、別の友人がタイプしてくれた。なにしろ私は英語力ゼロの人なので)。

次に、持参するポスターだが、日本の広告がいかに性差別に鈍感かを如実に表すものとして、西武百貨店の『人、着る』を選んだ。3月3日付新聞の全面広告に載っており、西武百貨店の店内のあちこちに所構わず貼ってあったりしたもの。全裸の若い白人女性を使っていたもので、一目見て頭に血が上り、腹が立ったポスターである。

世界女性会議に参加した人に日本の広告の現状を知ってもらうのに一番と思い、「このポスターは、ある百貨店の広告で、公共の空間や新聞に載ったものです。このことをどう思いますか」というアンケートを用意し、意見を書いてもらうことにした。

NGOフォーラム会場での反応

さて、会場に着き、ポスターを背中吊るし、歩きはじめた。勝手に眺めてもらい、話しかけられ、チラシを渡して説明し、アンケートを書いてもらおうと思ったからだ。しかし、すぐ呼び止められ、話しかけられ、写真を撮って

よいかと聞かれ、なかなか前へ進めない。

何度も言うようだが、英会話能力ゼロの私は、「プリーズ ユアオビニオン」とカタカナで言うのが精一杯。詳しく聞かれても、説明できない。それでも、みんな実に好意的で、62人がアンケートに答えてくれた。

また、意見を書いてくれなくても、「ヘイト」と親指を下に向けて共感してくれたり、顔をしかめて賛意を表してくれたり、頑張れと励ましてくれたりと、反応はとても良かった。いろんな国の人に写真を撮られたが、それぞれの国で、その写真を見た人の話題に、少しはなっているのではないかと想像すると楽しい。

さて、書いてくれた意見を一部紹介する。(英訳は、竹村摩佐巳さん)

☆むかむかする。女性の体で金を稼ごうなんて。同じことがアメリカでも起こっている。こんな商品はбойコットしよう。(アメリカ 57才)

☆女性は性の対象ではない。アイデンティティと、尊厳と、自尊心を持つている人間なのだ。小川真知子さんの活動に賛同します。世界中の男支配の文化が変わっていくことを望みます。

(香港 38才)

☆この広告は女性の尊厳と平等権に対する侵害です。日本人は、女性が性の対象物としてディスプレイされるようなことに対して抗議しなければ。(インド 39才)

☆人の目を引くために女性のヌードを使うなんて、絶対に駄目です。一刻も早く、これに関する法律をつくってほしい。(中国 ?才 日本語で記述)

☆他の国でも、出版界では女性のリアルな姿ではなく、イメージを使おうとします。白人女性のこのような姿はよくあることです。(メキシコ 35才)

☆健康的な体のイメージとはいえない。若い女の子にはよくない。(アメリカ ?才)

☆女を何だと思っているんだ！売り物にするな！(韓国 32才 日本語で記述)

☆私はこのようなイメージには深い関心があります。アメリカでは、私たちは、性的イメージの使用をなくそうとしています。でも、確かな規則を確立していないので、広告でたまに女性のヌードを見ることがあります。世界を変えていくために、組織的にやっていきましょう。(アメリカ 29才)

☆エジプトでも、法的な規制のガイドラインを持つてはいません。

しかしながら、イスラム教の考えでも、賛同できることではありません。(エジプト 66才 男)

☆ばかげた広告！この白人のヌードの女性は商品と何の関係もない。(アメリカ 50才)

☆私も反対していたので、これを会場で見るときは、感激しました。私も反対します。(日本 48才)

☆同じような状況が台湾にもある。この広告は、性的な差別の他に、人種的な差別もある。(台湾 43才)

☆このような性的差別はオーストラリアでは許されていない。(オーストラリア ?才)

☆これは商品とまったく関係のないことで、受け入れられない。(インドネシア ?才)

☆まったく受け入れられない。下劣だ。(フィリピン 45才)

☆この店は、女の裸を売っているのか？あまりにも性的だ！

(南アフリカ ?才)

☆なぜ、男性たちは、こんな方法で表現しようとするの？(スイス 38才)

☆このポスターは、セクシャルハラスメントです。(スウェーデン)

ン 36才)

☆メディアは、女性の権利にもっとと繊細であるべきです。広告に對してのボイコットや抗議、不買運動やサービスの拒否をしよう。(アメリカ 50才)

☆もし男性を同じような方法で露出したら、すぐに中止になることでしょう。(オランダ 51才、55才)

☆この広告は不適当だと思います。やめさせるべきだ。政府はこのようなことから女性を守るべきです。(ギアナ 18才)

☆もう充分です！(スペイン 44才)

残りもすべて掲載したいのだが、多すぎるので、割愛します。こうして書き写していると、北京でこのことが思い出されます。会場で会った人たちは、このポスターに真剣に怒っていました。日本にいると、この状況に慣れてしまい、怒りを忘れてしまっているなあと、反省しました。

アフター北京

北京から帰ってきて、「終わりが始まり」と、つくづく思う。私がNGOフォーラムで見聞きしたこと、その後の新聞報道や、NHKの衛星放送、E TV特集などで知ったことなどを併せて考えると、

第4回世界女性会議はすごい意味を持つ会議だった。

どこかの新聞が書いているような、交流主体の会議などでは決まてない。国連が90年代に開催した人権、人口、開発、環境に関する国際会議の集大成であり、世界が今後どういう社会を目指すかの指針を示した重要な会議だった。

(それをあたかも女どもが集まって氣勢を上げた程度にしか報道しないメディアの姿勢に腹が立つが、ここではこれ以上言及する余裕がないので、ひとまずおいておく)

さて、そういう会議に参加できた私は、今、「北京会議に参加した」で終わってしまったてはならない、と自らを戒めている。大事なことは、アフター北京だ。するべきことはたくさんある。

まず、『行動綱領』を読むこと。そして、『行動綱領』に盛り込まれた具体的措置を政府が、新国内行動計画の第2次改定計画案にきちんと入れるかを監視する責任がある。

「終わりが始まり」。北京で出会ったたくさんの人たちと連帯していくために、頑張らねばと思う。

